

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名

【 熊本県 】 宇土市立鶴城中学校

1 実践テーマ	【 Ⅲ, V 】
2 実施対象者	1・2年生 528 名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高め、障害者や共生社会についての理解を深める。
5 取組内容	<p>パラリンピアンによる講演会及び実技指導</p> <p>平成 30 年 2 月 22 日（木）に本校にて、吉田信一氏（パラ車いす卓球）を迎え、講演会及び実技指導を行った。</p> <p>(1) 講演 タイトル：「出会い、挑戦、感謝 ～夢を持とう～」 吉田氏の講演の大まかな内容は以下の通りであった。</p> <p>高校 3 年のときのバイク事故で車いす生活になった。 28 歳のときに、地元福島で全国身体障害者スポーツ大会の選手募集をしていて、卓球を始めたところ、面白く、もっと強くなりたいとの思いから上京を決意した。 競技成績が上がってきて、世界大会にも出られるようになってきた頃、東北の大震災があった。震災後に参加した世界大会で、各国の有名選手に、福島のために日の丸国旗にサインをしてほしいと頼んだところ、みなサインをしてくれた。自分も福島への恩返しをしたいと思うようになり、その形がパラリンピックへの出場という目標となった。リオ大会でやっとその目標を果たすことができたが、悔しい負け方で終わってしまい、今は仕事と両立させながらもっと強くなれるよう練習に励んでいる。 震災を経験してから、福島に貢献したいと思いながら競技を続けて</p>

	<p>おり、今回も震災で苦しまれた熊本のみなさんの力になりたいと思ってやってきた。</p> <p>卓球を通して感謝の気持ちが強くなり、自分の夢をかなえるためにたくさんの方が支えてくれていることを感じるようになった。その方々への感謝の気持ちが大きい。みんなにもそのような思いをもつことの大切さが伝われば嬉しい。</p> <p>リオ大会は、とにかく遠かったというのが印象的だった。バリアフリーが整った選手村はとても快適で、暖かい応援が大会のよい雰囲気を作ってくれた。</p> <p>最後に、今は二度と来ないから、この時間を大切にしたいと私も思うし、みんなにも是非そう思って頑張ってもらいたい。昨日と違う今日、今日と違う明日を過ごそう！そして、1つの夢が叶ったら、また次の夢の計画を立てよう！私は東京大会に選手として出場することを今の目標にしているが、みんなにも観戦等をしてほしい。</p> <p>生徒達は以上のような吉田氏の講演に聞き入っていた様子であった。</p> <p>(2) 実技指導 実技指導では、車いす卓球の体験を行ってもらった。</p>
6 主な成果	講演内容からみた成果 スポーツが障がいを負った人にとって多くのものを学ぶ場であることを理解した。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	卓球部の生徒と全校生徒の前でゲームを行い、パラリンピアンのごさを間近に見ることができた。
8主な課題等	継続的な事業の実施。
9来年度以降の実施予定	パラリンピアンによる事業実施